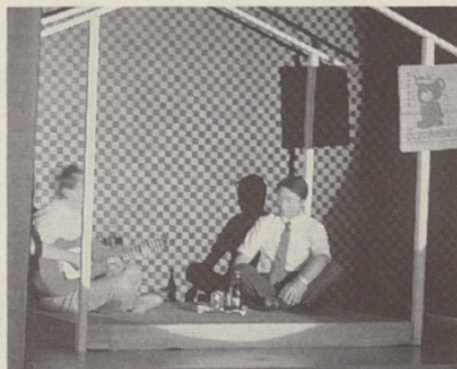


町内会の在り方 寸劇交えて提案

釧路あすなろクラブ

「お助け券」発行を

加入率向上へ例会で発表



練習で1枚の「お助け券」を披露した。寸劇「お助け券のギター、お助け券のギター」といって披露した。お助け券の発行を交えて寸劇で披露した。お助け券の発行を交えて寸劇で披露した。

これまでは、冷涼な気象条件から「釧路は日本一住みやすい」という切り口や、食材や観光資源を生かした魅力のPRで売り出すなど、釧路の魅力を引き出す提案がなされた。

第2部会は今回、「町内会が元気になれば、釧路も元気になる」(柵木部会長)という視点から、町内会の加入率を高める方法の一つとして、「お助け券」の発行を提案した。「お助け券」は町内会の中だけで流通する通貨のようなもので、困ったときに近隣住民の助けが必要な場合に支払う券。

部会メンバーは寸劇で使用例について紹介して

「練習で1枚の「お助け券」を披露した。寸劇「お助け券のギター、お助け券のギター」といって披露した。お助け券の発行を交えて寸劇で披露した。

を借りたときに「お助け券」の出番が巡ってくる。どんな場面でも、何枚使うかについては、近所付き合いの成熟度も求められる。

柵木部会長は「どうやったら入りやすい町内会ができるかな、という視点で考えた末に、お助け券にたどり着いた。こういう町内会が釧路にあってもよいのでは」と提案する。お助け券は換金できないが、誰かを助け続けて貯まった券は、自分が困ったときに使うことができる。

牧歌的な時代なら、お助け券がなくても近隣が助け合って共同体を形成していたが、町内会加入率が5割に落ち込んでい

る釧路の現状では「お助け券」の助けを借りる必要を説くのも一案といえ

そつだ。

釧路を元気づけるには町内会活動から。設立45周年を迎えた地元の異業種交流組織の草分け「釧路あすなろクラブ」(福田紀幸会長、会員52人)は23日、8月例会の中で、第2部会(柵木隆雄部会長)が加入率の伸び悩みを抱える町内会の在り方について、寸劇を交えて提案した。「発見、知見、想見、夢見」と年間テーマを掲げる同クラブでは、部会ごとに元気で夢のある釧路の姿を模索し、月例会で発表している。今回の例会では釧路市連合町内会の矢野忠治会長を招き、町内会の現状や将来像について質疑応答した。

(木村啓司)